

お友達とおやつを一緒に食べるときに備えて、見た目がそっくり同じものを牛乳除去して作って準備していました。しかし、母親が席をはずしたときに、お友達のお母さんが区別つかなくて与えてしまいました。食べて15分ぐらいした時に全身の痒みとじんま疹が出て間違っで与えたことに気づきました。すぐに手持ちの薬を飲ませて症状はおさまりました。

解 説：

お友達には牛乳入りの市販のアイスクャンディー、患児にはおかあさんの手作りの牛乳除去のアイスクャンディーを準備しておいたが、見た目がほとんど変わらないために、お友達の母親が患児に牛乳入りのアイスクャンディーを与えてしまった。

対 策：

除去食を行っている場合も、できるだけ同じようにみえるものを与える工夫は大切と考えます。しかし、そのことをみんなで理解していないとこのような誤食につながります。食器を色違いにしたりして区別するのも、本人やまわりの人が除去食をわかりやすくする方法になると思います。

2. 歯科材料アレルギー治療の健康保険への適用を（その2）

『やっとかさ！』

日本歯科医師会雑誌という、日本歯科医師会会員の会誌があります。

この11月号に「金属アレルギーの治療の流れとメタルフリー修復の現状」という題で松村光明東京医科歯科大学教授の書かれた歯科医師生涯研修のための論文が掲載されました。〔論文キーワードは金属アレルギー・パッチテスト・メタルフリー修復です。〕

どうです？既に皆さんがよくご存知の歯科材料アレルギーについての勉強が、やっど歯科医師全体で本腰を入れて始まった、ということなのです。まだそんなレベルなのか、という見方も一部にはありましよう…。歯科材料アレルギーと格闘してきた皆さんは「現在の歯科医師のそんなレベル」に、きっと思うところがあるに違いありません。

健康保険治療でなされる歯科診療において、厚生省は使用される歯科治療材料の「安全性」を確認しています。なぜ今日に至るまで、厚生労働省が歯科の「医原病」と言えるかもしれない「歯科材料アレルギー」の健康保険治療制度充実に冷たかったのでしょうか。

ここで、確認しておきたいことがあります。それは使用される〈材料の安全性〉と〈体へのアレルギー発現性〉は、全く意味が違ふと理解する必要があることです。つまり安全とされる物質も、それが存在する条件次第では、ある個人にとって有害な現象(アレルギー症状など)を引き起こすということです。

さて、歯科材料アレルギーに対する今日までの歯科医師側の認識不足は否めません。意外に思われるかもしれませんが、大学教育での不足や卒後歯科医師教育の不徹底が最も重要な原因でしょう。その知識不足を歯科医師の側から卒後教育の場で取り戻すことになるのがこの度の論文掲載です。この教育のための論文は、ほとんどの開業歯科医の目に触れるものです。したがって、専門家向けの論文掲載にも関わらず、皆さんにもその事実を敢えてお伝えする意味があると考えました。

これで歯科医に「歯科材料アレルギーは知らない」とは言わせない！もう特殊

な診療活動ではなくなりつつあるのです。「歯医者は歯だけやっておればいい、他の体についてはノータッチで…」という、医師側と歯科医側との暗黙の了解認識がいつしか生じて、長年に渡り修正されずにきたことも、これまで孤軍奮闘して来られた読者の皆様の力を改めてお借りすることで、これからは次第に是正されてゆくことでしょう。

歯科医/菌田順

3. 理事のつぶやき 『須藤千春』

医学気象予報の実現に向けて、お願い

中部大学 応用生物学部
環境生物科学科 須藤千春

気象や季節が私たちの毎日の体調や健康に影響することは古くから知られています。特に喘息や風邪などのように特定の気象、あるいは気象の変化によって発症あるいは症状が変化する病気を「気象病」と呼んでいます。また気象と病気との関連研究に基づき、発症の危険度を予測し、その結果を一般に通報し、予防措置を実施していただくことを目的とした情報配信システムを「医学気象予報」と呼んでいます。つまり医学気象予報は疾病の予防を目的とした天気予報とも言えます。

このようなシステムは 1952 年にドイツで病院・医師向けに始まり、現在ではイギリス、アメリカ、オーストラリアなどでも広く一般への健康天気予報となっています。また世界保健機構（WHO）は今後の気候変動により各種の疾患が増加すると予測し、対策の一つとして「気象情報に基づく病気の早期警報システム」の構築を呼びかけています。

日本においても今後の人口の高齢化や地球環境の温暖化より、罹患人口が増加しますので、病気の発病予防対策が益々重要になります。その一対策として総合的な医学気象予報システムを樹立することが大切であると考えられます。

このように考えていましたところ、愛知県新産業部が「健康長寿産業育成のための地域連携実証事業」の提案公募を行っていたので、「医学気象予報の実証実験およびニーズ調査」という題で応募しました。幸いに採択され、風邪症候群と喘息を対象とした医学気象予報の配信、その効果の実証、さらに医学気象予報の必要性などを調査することになりました。

会員の皆様にはこの事業の意義をご理解いただき、調査やモニターとしてご協力くださいますようお願いいたします。

4. アレルギー大学講師の声 『和泉秀彦先生』

皆さん、こんにちは。アレルギー大学で『アレルギーの食品学』（初級編・中級編）を担当させて頂いています名古屋学芸大学の和泉です。

毎回、講演を聴講される方の熱心さに感動しています。それは、食物アレルギーのお子さんを持つ母親あるいは食物アレルギーの患者さんへ食事を提供し食事指導をする職に就いておられるからだと思います。また、皆さんからの質問が私の

研究活動の励みになり、深く感謝しております。今回は、食品学の立場から皆さんにメッセージを書かせて頂きます。

一般的には栄養学という言葉はよく耳にするとと思いますが、栄養学と食品学というのは密接に関わっています。栄養学というのは、ヒトが摂取した食品中の成分が体の中でどのように変化して、どのようにヒトの生命を維持するのかを究明する学問といえます。では、食品学はというと、ヒトが食べる食品にどのような成分が含まれ、その成分が生体に対してどのように機能するのかを究明する学問です。つまり、食品をよく理解した上で、栄養学を理解することが必要だと思います。言い換えると、食品中の成分そのものを理解した上で、その中の成分がどのように生体に影響するかを理解するということになります。

食物アレルギーを引き起こす物質は言うまでもなくタンパク質です。食品学・栄養学から考えると、タンパク質の性質について知り、それがどのように消化され、吸収されてヒトの生命維持に関与しているかを知ることが必要となります。タンパク質は、生体を構成している成分の中で最も多く、酵素・ホルモン・筋肉など様々な機能を果たします。タンパク質の摂取なしに生命の維持は考えられません。

しかし、ある食品にアレルギー反応が出るとその食品が食べられなくなり、除去療法が施され、栄養的に問題となります。さらに、回りと同じものが食べられないというのはかなりのストレスになり、精神的にも問題になると思います。また、アレルギー患者に対する代替食品は多く出回っていますが、患者やその家族にとってはかなりの経済的負担と精神的負担になると思います。そこで、私は食べる前にアレルゲン性を低減化した食品を提供できればと思い研究しています。食品の特性やその食品に含まれるアレルゲンの特性を知り、調理や調理前の処理によりアレルゲンの低減化ができれば、無理なくその食品を食べることができるのではないかと考えています。タンパク質の性質を踏まえて、調理等の過程でタンパク質低分子化や除去ができることが望ましいですね。さらに、その過程でほとんど栄養価が変わらないというのが最高です。もとの食品そのものが食べられることが一番です。

私は、アレルギー大学の講演をするようになってから、多くの方が食物アレルギーで悩んでいることを目の当たりしました。また、その方々への食事にはかなりの労力が必要であることを学びました。

今後も、皆さんのお役に少しでも立てられるよう研究に励み、その成果を実生活に生かせるよう努力したいと考えています。皆さんからの質問によって、私自身が皆さんから学ばせて頂いていることが多いのも現実です。これからも皆さんからの素朴な疑問や悩みをお聞かせ願ひ、ともに食物アレルギー患者に対する食事について考えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひします。

5. アレルギーの会の活動紹介 『アレルギーっこのつどいクリスマスローズ』

私達「アレルギーっこのつどいクリスマスローズ」は、小牧市近郊に住むアレルギーっこの親の会です。小牧市中央子育て支援センターにて、月二回（第二・三木曜日）15組の親子でサークル活動をしています。主に、アレルギー対

応食品やアレルギー関連イベントなどの情報交換を中心に、子育てサークルとして手遊びや工作などを楽しんでいます。

アレルギーっこの生活は食事など制約され、時には心細さを感じることもありますが、同じ立場の親同士でわかりあえる喜びは、私達の生きる力になっています。

今年度は小牧市市民活動団体として登録し、10月にはその助成金事業として、アレルギー支援ネットワークの中西里映子事務局長を講師として講演会と料理教室を行いました。16組35名の親子に参加いただき、反響の大きさに私達自身も驚くほどでした。また、8月には市内にあるケーキ店で販売されているアレルギー対応ケーキの試食会を行いました。

アレルギー支援ネットワークやたくさんの協力者のお力添えに大変感謝するとともに、私達自身も大きな励みになりました。

これからも親子で交流の輪を広げ、身近なところから少しずつでも、アレルギーっこのために住みよい社会になっていくような働きかけをしていきたいと思っています。

子ども達と一緒に「クリスマスローズ」および私達自身も成長していきたいと思しますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

6. 会員からみなさまへ

こんにちは。卵・牛乳乳製品にアレルギーがあり、喘息持ちの5歳の息子の母親です。3年半前まで愛知県にいましたが、その後福岡に2年半、今は熊本県に住んでおります。引越の度に、病院探しとその地域のアレルギー情報（お店・保育園・幼稚園など）を入手するのに奔走しています。

アレルギーの親の会は全国各地域にあり、転居の度に紹介していただいて、見知らぬ土地に住み始めた当初の私にとっては、心強い見方であり支えになっていただきました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

息子は現在保育園に通園し、給食ではアレルギー対応を本当によくしていただいています。小学校が給食センター方式になるので、就学後が大変かなと心配しています。

血液検査では、牛乳・乳製品が最近陰性になっていましたが、実際に解除をしようとしても、ヨーグルトを少しずつ食べて、ある一定の量になると、口の周りのかゆみを訴えます。除去になれている今、解除の難しさを痛感しています。

しかし、4年半前の除去食を始めた原点を思い返してみると、当時は頭の中がパニックになりながら、少しずつ食生活・住環境など、体にいい暮らしをするように変えてきました。息子にアレルギーが分かったことで、食の大切さ・環境の大事さなどを勉強できたと思います。息子には、感謝をしなければいけないと思います。（普段は、結構親子げんかをしているのですがね）

現在身近にはアレルギーのお子さんが少ないのですが、アレルギー支援ネットワークのメールマガジンなどアレルギー情報は私にとって、自分を振り返り、点検するいい機会です。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

K.F

7. 賛助会員からのメッセージ 『カルピス株式会社』

賛助会員のカルピス株式会社です。

弊社は永年の乳酸菌研究・開発により、2000種類におよぶ弊社保有の菌株の中から抗アレルギー作用が認められる「L-92 乳酸菌（学術名：ラクトバチルス・アシドフィルス・L-92 株）」を発見致しました。

現在、花粉症・通年性アレルギー性鼻炎・小児性アトピー性皮膚炎において、いずれもヒト試験により、症状の緩和などの効果があることが分かり、各学会で発表させて頂いております。

「L-92 乳酸菌」は腸内の免疫バランスを整え、アレルギーに負けないからだ作りを応援します。是非、一度お試し下さい。

（「L-92 乳酸菌」を活用した製品をお探しの方は、インターネットで「L-92」と検索して下さい。）

弊社ホームページです。

<http://www.calpis.co.jp/>

学会発表の内容はこちらです。

<http://www.calpis.co.jp/laboratory/gakkai/index.html>

8. 事務局の窓辺から

はじめまして。事務局でお手伝いさせていただいている岡本です。離乳食を開始した頃に、食物アレルギーとわかった年長の娘と主人との3人家族です。

現在も卵がクラス6なので、完全除去しています。幼稚園は給食がなくお弁当なので良かったのですが、来年は小学生。『給食はどうしよう...』が今の私の悩みです。とはいえ、1歳半で地元のアレルギーの会に入れていただき、皆さんに話をたくさん聞いてもらい、いろいろ教えていただき、とても楽になりました。私が喘息もアトピーもあるので娘もアレルギーマーチになりつつありますが、元気にすくすくと育っているの、それも受け止めることができそうです。事務局では、少しはお役にたっているの？と不安も感じますが、忙しい事務局長の下で、舟津さんとともに頑張ります！

9. 2008年「第3期アレルギー大学」日程の訂正と会場の追加のお詫び

2008年 第3期アレルギー大学の開講のお知らせをメール便にていたしました。お手元に届きましたか？まだ届いてない方もいらっしゃると思いますが、第3期アレルギー大学の日程について誤りと、第7会場の記載漏れがありました。申し訳ありません。お詫びして、訂正いたします。

第3期アレルギー大学受講科目・日程・会場(三重・静岡・愛知)の表

愛知県 初級 実習No.25 (誤)8/23 → (正)8/9

実習No.26 (誤)8/24 → (正)8/10

実習No.27 (誤)8/30 → (正)8/23

第7会場 名古屋市昭和生涯学習センター

〒466-0023

名古屋市昭和区石仏町 1-48

TEL052-852-1144

以上です。

よろしく申し上げます。

《お問い合わせ》

NPO 法人アレルギー支援ネットワーク事務局

アレルギー大学担当 園木

e-mail : sonoki@alle-net.com

Tel/fax : 050-1369-8790

10. ホームページのお知らせから

A) アレルギーっ子の集い・フェアのお知らせ

来る2月2日(土)・3日(日)にアレルギーっ子の集い・フェアを開催いたします。記念講演や、アレルギー対応食品を使用したプチパーティー(有料・要予約)を予定しています。みなさんぜひご参加ください。

詳しくはこちらまで↓↓↓

http://www.alle-net.com/blog/event/2007/12/post_20.html

B) 「ぜん息」症状のある方へ モニター調査にご協力ください

http://www.alle-net.com/blog/event/2007/11/post_17.html

C) 「防災・救援ネットワークシステム」への登録のお願い

http://www.alle-net.com/blog/event/2007/11/post_18.html

11. ボランティア・スタッフ募集

ボランティア・スタッフを募集します

《アレルギー支援ネットワークでは、ボランティア・スタッフを募集しています》

・パソコン(ワード、エクセル、アクセス、お絵かきなど)が得意な方

・イラストなどを描くのが得意な方

・何でもやってみたいなという方

・イベント、フェアなどを手伝ってくださる方

まずは、ご連絡ください。お待ちしております。

詳しいことは、事務局までお問い合わせください。

【問い合わせ】NPO 法人アレルギー支援ネットワーク 事務局 (担当: 中西)

FAX : 0564-55-5702

e-mail : info@alle-net.com

12. アレルギー支援ネットワーク一般会員募集します

《アレルギー支援ネットワークでは、一般会員を募集しています》

詳しくは、<http://www.alle-net.com/>

「支援ネットについて」の「会員の特典・入会書」をお読みください。

【問い合わせ】NPO 法人アレルギー支援ネットワーク 事務局（担当：中西）

FAX：0564-55-5702 e-mail：nakanishi@alle-net.com

★皆さんのお近くで、アレルギーに関心、興味をお持ちの方、アレルギーでお悩みの方がいらっしゃるようでしたら、「アレルギー支援ネットワーク・メールマガジン無料登録」をご紹介ください。

★メールアドレスの変更や、このメールマガジンに関するお問合せは、asn-mailmagazin@alle-net.com（担当：園木）までお願いします。また、今後、アレルギー支援ネットワークのメールマガジンを希望されない方は、お手数ですが、件名に「配信停止希望」と書いてメールをお送りください。（メールマガジン配信準備の都合上、配信停止手続きと行き違いでお届けする場合がございますが、ご了承ください。）

★このメールマガジンのメールアドレスには、返信はできません。ご注意ください。

★メルマガの転載について
無断転載・転送を禁じます。アレルギーの会などが活動で使用する場合は、事務局担当(園木)sonoki@alle-net.com までお尋ねください。

★会員のみなさまからのご要望、お便り、アレルギーについての疑問などお寄せください。

NPO 法人アレルギー支援ネットワーク

◇事務局◇ 444-0802 愛知県岡崎市美合町三ノ久保 13-3, 103

▽TEL/FAX：0564-55-5702 ▽E-mail：info@alle-net.com

☆◆-----◆☆